

エッセイ

カキモノが趣味です！

五〇〇文字小説 から 二次B L まで

著・氷砂糖

とっても珍しく

書き下ろしだよ！

～女子きな40言語 五選～

『神様様のポート』

江國香織

『世界の糸織りとハードボイルド・ワンダーランド』

村上春樹

『密やかな結晶』

小川洋子

『西洋骨董洋菓子店』

よしながみみ

『この愛は、異端』

森山紘史

私
は
好
き
な
も
の
は
カ
キ
モ
ノ
は

・ ・ ・
・ ・ ・
・ ・ ・
19 11 3

～女子きなアルバム 五選～

『音楽』

東京事変

『ミュージカル「刀剣乱舞」-東京心覚-』

刀剣男士 formation of 心覚

『KAGEKI』

アルカラ

『FRAGILE』

fox capture plan

『NBCP』

Neighbors Complain

私は——氷砂糖です

はじめまして！ 私は氷砂糖というペンネームでカキモノをしている者です。ツイッターや二次創作のときには佐藤こおりと名乗ることもあります。

この本は、『一度エッセイच्छゅーもんを作ってみたいなあ』という思いで執筆されたものです。同人誌は思い立ったときが作りどきなんです。

私はもう十年くらい同人誌を作っているのですが、普段は本にあとがきを入れませんが、もちろん例外はあるのですが、丁寧（なつもり）に作ったお話に、私自身の語りが入ってお話の雰囲気壊れるのは嫌だなあと感じてしまいます。作風と普段のおしゃべりの差が大きいタイプだと分析しているのです……。

でも他の人の同人誌のあとがきを読むのは好きで、もしかしたら、万が一、億が一、私のあとがきを欲している人がいたら……？

そういう思いもあり、けれどやっぱり大事に書いたお話を私自身の語りで台無しにし

たくはなくて、『そうだ！ あとがきだけで本を作ればいいんだ！』という無謀な思い付きを形にしてみました。

私は個人サイトを持っているのですが、そちらではだいたい週に一回くらいブログを更新しています。雑多な日記みたいな内容のブログです。そちらを楽しみにしているとおっしゃってくださる友人もいて、じゃあエッセイ本も作れるのでは？ と思ったのでした。年齢も大台に乗りまして、その記念にもなるかな、なんて。

ちなみに誕生日というのは私にとって結構大事なイベントでして、大台に乗った記念に友人、ほがり仰夜さん (@torinomebinzuma) にツイッターアイコンを依頼しました。とっても気に入っていて、氷砂糖のアバターとして使いたいと思いい、作画ワタクシなアクリルスタンドを作成させてもらいました。表紙のアクスタのキャラはそれです。

そんな感じで好き勝手なことをやっているおばさんのエッセイです。お楽しみいただけますように。

私は——五〇〇文字小説を書いていました

五〇〇文字小説というのは五〇〇文字以内で完結させる小説のことです。私は長いことそれを書いてきました。

超短篇という小説ムーブメントがあり、それは『超短篇・500文字の心臓』という競作サイトを中心にしたコミュニティだったのですが、私は二〇〇五年から二〇一八年まで、途中で名義を変えたりちょっとお休みをしたりしながらそのサイトのタイトル競争に参加していました。

タイトル競争というのはお題として提示されたタイトルでおよそ五〇〇文字以内の超短篇を書き合い、作者匿名で発表したものを句会形式で得点を付け合う、文芸ゲームみたいなお遊びです。良いという得点を一番たくさん集めた『正選王』と、悪いという得点を一番たくさん集めた『逆選王』を決めていくのですが、得点を入れる際に選評、つまり感想を付けるのがルールで、この得点システムのおかげで私は書き始めた頃からたくさんの反応を貰うことができました。幸運なことです。

ウェブ上で小説を書いていてもなかなか感想や反応を貰えない、というのが多くのウェブ物書きさんたちの悩み事だと思います。私も500文字の心臓を離れてからはよく思います。

ウェブでカキモノを始めた私は運良くこのサイトに出会い、カキモノの基礎を固めることができました。

カキモノの上達にはやっぱり『その表現が伝わったかどうか』の反応を貰えることが一番効くんですよ。このサイトに出会ってタイトル競作に参加していたおかげで私の書く五〇〇文字小説の良いところや悪いところを指摘してもらえて、それでそれなりに上手な文章を書けるようになったと思っています。

ただまあもちろん、五〇〇文字というとても短い小説ばかりを延々と書いていたおかげで長い文章がすっかり書けなくなってしまうして、同人誌を作り始めてから『これ、読者の方は物足りないのでは？』という壁にぶち当たってしまったのですがね。

私は——伸縮小説を始めた者です

伸縮小説とは、一〇〇〇文字・四〇〇文字・八〇〇文字・二〇〇〇文字で同じお話を語る小説の形式です。

私が伸縮小説として作品を発表したのは、二〇一五年のテキレボ（テキストレボ リューションズ）という同人誌即売会の公式アンソロジーが最初です。テキレボは私が初めて参加した即売会でもあり、思えば初めてがたくさんのイベントでしたね。そこで知り合って仲良くなった書き手さんがいたりもします。私は個人的な事情でイベント出展は委託しかできないのですが、テキレボは委託でも宣伝を巧くやれば結構手に取ってもらえて勉強になるイベントでした。まあ宣伝が楽しくないというか苦手だな、と気付いてしまったのでテキレボ出展もやめてしまいました。

二〇一二年頃、てのひら怪談大賞という賞に応募していた方たちの間で局地的に『伸

縮怪談』というものが流行っており、それを参考にして伸縮小説のフォーマットを整えました。私自身はてのひら怪談大賞には応募していませんでしたが、500文字の心臓参加者の中に応募者がたくさんいたのです。

五〇〇文字小説ばかりを書いていた私にも、伸縮小説の形であれば四〇〇〇文字近い文章が書け、一次創作のアンソロロジーに参加する際はだいたい伸縮小説でした。

この形式、やっぱりそれなりに目立つらしく、インパクトもあるし『氷砂糖らしい作品』といえば伸縮小説』みたいなブランディングをしていたのです。

今では少し下火みたいですが、何人かの書き手さんが伸縮小説のフォーマットを使ってお話を書いてくださっているのを観測しています。嬉しいですね。私のことなんか忘れられても、伸縮小説が広まっていけばいいなと思います。ツイッター検索で『伸縮小説』という文字列の含まれたツイートを見かけるたび、にこにこしています。

私は——今は二次創作BLをメインで書いています

ずっと一次創作ばかり書いていたのですが、二〇一八年に突然版權にハマりました。『MakerS-おはよう、私のセイ』というスマホアプリで、夢小説を量産していました。

次にハマって今も沼に居るのが『刀剣乱舞-ONLINE-』で、明石国行というえっちなお兄さんがすごく好きになってしまいました。推しです。

それで、最初は明石国行と女審神者（プレイヤー）のお話を書いていたのですが、私なぜかお話の中で女審神者ちゃんを死なせてしまいがちで……。

いや、なぜかも何も、もともと異種婚姻譚が大好きで死別エンド好きなんですけどね、推しには幸せになってほしいんですよ。明石国行に哀しい思いをさせたくない。

そんなことを考えていたので二次創作BLもわりと積極的に読むようになりまして、その中で読んだ『やげあか』、つまり葉研藤四郎と明石国行のカップリングのお話に心

を射抜かれてしまいましたね、私確信したんです。明石国行を幸せにできるのは薬研藤四郎だ、と。

そんなわけで今はやげあかをメインで書いています。えっちなのも書いていますよ。

そして明石さんと薬研さんの幸せをたくさん書いていたらですね……薬研さんもだんだん推しになってきてですね……薬研藤四郎と女審神者のお話も書き始めています。最推しはずっと明石さんなんですけど、薬研さんのグッズとかも買っちゃおうようになってしまいましたし、私はハマると沼底まで爆速で沈むんですよ。知ってた。

ちなみに明石さんも薬研さんも眼鏡をかけた刀剣男士なんですけど、私は別に眼鏡が好きじゃなくてもは何度も繰り返し言っていきたい。

色っぽくて知的なキャラクターにハマりがちなんですけど、そういうキャラが眼鏡をかけている率が高いだけです！眼鏡なんて好きじゃない！

好きなものは——地元福岡

九州以外に住んだことがありません。出身は福岡県の北の方、北九州市というところで、中学卒業で佐賀県の高校に入りました。その後、福岡市内の大学に進学し、いろいろあって福岡市でもう長いこと暮らしています。

福岡良いですよ、適度に都会、適度に田舎。福岡市内には福岡市美術館・福岡県立美術館・福岡アジア美術館・福岡市博物館・福岡市科学館、とたくさんミュージアムがあって、私は障害者手帳所持者なのですが、手帳を使えばほとんどの展示をタダで見ることができちゃいます。このコロナ禍ではできないことも増えましたが、時間が空いたのでふらりと立ち寄ってみる、という過ごし方ができるのです。

私はお話を作るときに基本的には私自身の記憶から引っぱり出してきた情報を練ったり捏ねたりするのですが、それってある程度情報のインプットを定期的に続けていないとネタ切れを起こしてしまいます。もちろんインプットには本を読んだり映画を見た

り、人によっては旅行に行ったり、もっとダイレクトに勉強したり、なんかが手法として挙げられるんでしょうけれど、私は自分の目で見て体験した物事を咀嚼して消化するのが好きです。そういう意味で適度に都会な福岡市は適度に刺激があっといういなあと思っています。

前述のとおり、今は刀剣乱舞にハマってしまして、登場する刀剣である日本号・へし切長谷部・日光一文字を福岡市博物館で生で見ることがそんなに難しくもないのも嬉しいことです。へし切長谷部と日光一文字は国宝の刀剣で展示期間に制限がありますが、呑み取りの槍こと日本号は常設展示ですのでもし福岡を訪れる機会がありましたらぜひご覧いただきたいです。めっちゃ美しいんですよ……柄の螺鈿もきれいですけど穂に彫りこまれた俱利伽羅龍がほんとにすごくて……。

もちろん福岡、ご飯も美味しいです。とはいえずーっと地元にいるのでこの味に慣れているというのが大きい気もします。一人でラーメン屋にも行くタイプですが、最近はどうどん屋さんに行くことの方が多くなりました。脂が消化できなく……老化怖い。

好きなものは——本というより物語

私はカキモノをしているわりにそれほど読書家ではありません。最近読んだ本はマンガばかりですが、マンガもそれほどたくさん読んでいるわけでもありません。

一番たくさん本を読んでいたのは小学生の頃で、学校でストープがあって児童が寛げる場所というのが図書室しかなく、それで図書室に入り浸り、結果的にたくさん本を読んでいたのです。ひみつシリーズや子供向けのミステリなんかが大好きでしたね。江戸川乱歩の少年探偵団シリーズなんかも。

高校の図書室にマンガはほとんど置いていませんでしたが、代わりにと言うべきか現代文学や大衆文学の新刊がずらりと並び、ここで江國香織『きらきらひかる』に出会ったことがとても大きかったと思います。こんなにきれいな物語があるんだ、と驚き、その近くにあった村上春樹を手に取り、姫野カオルコを手に取り、という風に『今』の物語を摂取することを覚えました。

私は大人になってからカキモノを始めたのですが、書き手さんたちとお互いの作品を読んだり読まれたりを含む交流をしていると、やっぱりヘキがバレるんですね。『あなたはこのが好きだと思う』と本や映画や音楽なんかをオススメしてもらえてヘキを深く掘らせることになりました。もちろん幸せです。

平均寿命まで生きるとしてももう折り返し地点で、つまりは残された時間には限りがあります。書きたいもの、作りたいものを含むやりたいことはまだまだたくさんあります。ショートカットができるところはショートカットしたいと思うのは人情です。効率化することを悪く言われている場面に出くわすと、ときどきもにやっちゃってしまいます。

それにしてもKindleは便利ですね。iPadにKindleアプリを入れていますが、iPadを手に入れてから読書はもっぱらこれです。物理的に収納を圧迫しないことは本当にありがたくて、収納に関しては何りもり増える同人誌（一次も二次も）とグッズのことをメインで考えておけばいいんですから。

好きなものは——形として残したい

同人誌を作り始めて十年ほどになります。それまでもそれなりに長くカキモノ自体はしていたのですが、ウェブ上にアップするのみでした。

物理的な紙の本を作ろうと思ったきっかけは東日本大震災で、あの津波がすべてを飲み込んでしまう映像は衝撃的でした。私自身が私の思いと関係なく突然死んでしまうこともあるんだな、とふと気付き、それが同人誌を作ってみようと思ったきっかけです。本になっている自分のお話を読みたかったのが半分、もう半分は、もし私が死んだとき、私のことを知ろうと誰かが『遺品』を読んでもくれるのでは、という後ろ向き希望。いざ一冊作ってしまうと私のお話が本の形になっていることにテンションが上がってしまい、なんのかわんの毎年なにかしら作ってしまうようになりました。

ウェブ上にお話をたくさんアップしていますが、イベントに参加する機会を得てから紙の本、物理的に存在がある本の力っていうのはあるなあと考えました。

本という形にパッケージされたものはウェブ上に散逸している個々の作品よりもコンセプトがわかりやすく、つまりは手に取るか取らないかの指標になりやすいです。手に取られない場合はともかく、手に取ってもらえたら物理的に本が存在していればいつかは読む機会に恵まれるかもしれません。いや、私わりと積読をするタイプでしてね……買ったけどまだ読んでない状態って結構ありますよね。それにしてもいざ私が死んでしまったら私の著書の処分が大変そうな冊数になっていますよ。在庫も含め。

そんなわけで同人誌を作り続けているわけですが、ここ数年というか著作権の二次創作をするようになってアクリルスタンド（アクリルフィギュア）ってとってもいいなあと思ふようになりました。

アクスタがあると！ なんと！ 現実に物語世界が現れる！

いや、アクスタと一緒にいろんなものを写真に撮るのが楽しくて……！ 公式のアクスタがあるものもあるんですけど、拙いイラストでも私が描いた絵のアクスタだと私の思う表情をしてくれてるんですよ……楽しい……。

好きなものは——語り合いたい

SNSには功罪どちらもあると思うのですが、地方都市で好き勝手カキモノをやって遊んでいるとともありがたいものだなあと感じます。私は主にツイッターに生息しています。ジャンルごとにアカウントを分けられない雑多というより闇鍋みたいなアカウントなので、フォローするのはあまりオススメしませんよ？

ツイッターはたぶん二〇一〇年に最初のアカウントを作りました。独り言ツールではありませんが、わいわいとお喋りするオープンなチャットみたいな使い方をしている、リアルで会って喋るような友達がとも少ない私にとって大事な憩いの場です。

いろいろな人をフォローしています。

一方的な片思いフォローも含めると、本当に傾向が雑多です。ツイッターを始める前から交流のあった人、好きな（好きだった）ジャンルで交流のある人、病気関連の情報から知り合った同志、もはや何がきっかけだったか思い出せないけれどたまにお喋りする

る人、学者さん（どうして相互になってくれているのかわからない人がいる）、ミュージシャンの方、作家さん、俳優さん、スポーツ選手、コンテンツ公式アカウント、政治家、行政、ポットやネタアカウント。

私は見かけた話題に反応して唐突につぶやき始めることも多いので、本当に雑多な鍋アカウントになっています。

こんな本を作ってしまったくらいには、私はお喋りが好きで、でもリアルではなかなかその機会に恵まれません。独り言も含め、お喋り欲を発散できる場があることはありがたいです。ちなみにツイッターを始める前はよくチャットに入り浸っていました。

ネット環境がないと生きていけないだろうな、とときどき思います。テレビもすっかり見なくなってしまうましたし、新聞も取っていません。情報のほとんどはウェブから得ています。調べ物をするときもまずはウェブ検索です。SNSのおかげで情報だけではなく、人間の人間らしさに出会えるのは、いい時代に生まれたんだと思います。

カキモノは——祈りのようなもの

無心で手を動かしていると心穏やかになります。作業療法なんかもこの感じなのだと思っています。世の中には、生活していく中では、嫌なことやつらいこと、しんどい思いをすることがたくさんあって、すべてを回避するのはおそらく困難です。

私は怒涛の流れのSNSのタイムラインを眺めていると自分が希薄になっていくよううでどこかほっとするのですが、そういうタイムラインはガンジス川のようになにもかもが流れています。きれいなものばかりではなく、汚いものや哀しいもの、恐ろしいものまで。それらを眺めて『世界は広いなあ』と思えているうちはメンタルも安定しているのですが、もちろん引っ張られてしまうこともあります。私もなにか手助けをしたい、なにか役に立ちたいと。

そういうとき、実際に役に立つ行動を起こすこともないわけでは無いのですが、私の無力さをそれなりに知っていて、ならば変に荒立てるよりは私自身の気持ちを落ち着かせ、冷静になりたいと思います。

ハッピーエンド至上主義です。書きあがるのはバッドエンドやメリーバッドエンドになってしまいうこともありますが、登場人物たちに幸せになってほしいという思いは常にあります。

私の書く登場人物たちは出くわした困難に向かい合い、立ち向かい、あるいは受け入れ、それぞれの考える最良、最善の結末を導き出そうとします。『最良の結末』は、とくに問題の解決であり、ときに一番痛みの少ない過程であり、ときにつらさへの慣れです。私は登場人物たちに仮託して私の問題や痛みやつらさを乗り切るイメージトレーニングをしています。

どうか、無事に済みますように。

キーボードを叩きながら最良、最善の過程を辿らせます。それがもし現実だとするならばこうであってほしい、こうあるべきだ、と思いつながら無心で手を動かします。

私の書く物語は静かだと言われることがあります。穏やかであってほしいのでその感想はとてもうれしいです。激しく情熱的なドラマよりも、私が心落ち着くのは静かで平穏な日常なのでしよう。そんな日々が続くように祈りながら、カタカタ、ッターン。

カキモノは——歳を取っても上達します

私は長いこと五〇〇文字小説ばかり書いてきていて、そこそこの小技を使えるくらいにはテクニクがあると思っっているのですが、長い文章は全然書けないなと思っっていました。いや、今もそれほど長い文章を書けるようになったわけではないのですけどね。実験小説とでも銘打てば多少奇妙な形式（たとえば超短篇のような）でも受け入れてくれるのが一次創作の懐の深いところではあったのですが、前述のとおり、私は今、二次創作B1をメインに書いておりまして。

比較的マイナーなカッピングを書いてるので賑やかしても存在価値がないわけではないのですが、やはり二次創作小説となると『長ければ長いほど良い』という価値観が主流のようです。それをダイレクトに見かけて落ち込んだ夜もありました。

とはいえ、落ち込むだけなら誰でもできる、と、長い文章を練習してみることにしました。ネタを研磨し際立たせるために、それまでは一つしか入れていなかったのですが、コネタを含めいくつか組み合わせてみたらどうか、とか、多少冗長になっても会話や描

写を長めに書いてみる、とか。試行錯誤をやってみるのは実験をやってるみたいで楽しいなあと思うのは実験実習のある学科に進学したサガかもしれないですね（中退だけど）。そしてワタクシ、高校まではガチめの運動部に所属しておりましてわりと脳筋、練習あるのみ！ と突き進むのは苦手ではありません。

結果どうなったか。

なんとこの歳になっても能力は伸びるんですね、ありがたい。それまで頑張ってたやっとなん千文字を超える、というレベルだったのが、コンスタントに二千文字を刻めるようになりました。私の中ではすごいことなんですよ。

頑張れば三千文字までは射程圏になってきましたが、これより文字数を伸ばすにはプロットを書くべきかなあ、でも一度出力しちゃうと満足しちゃうしなあ、と新たな悩みも発生させつつ、まだ伸びしろが残っていたことが嬉しいですよ。

同じカブで活動している方々とお題を出し合ったり、ワンライ (One Hour Writing) 一時間でお話を書くというお遊び) をしたりしながら腕を磨くのがほんとに楽しくてたまりません。実のところ、五〇〇文字小説を書かなくなったのは能力の頭打ちを感じて飽きた面があるのですが、自分の成長を感じられる間は小説を書き続けたいです。

カキモノは——楽しい

小説という形式にこだわっているのは、これがテキストのみを使ったプレーンでベシックな表現手段だと思っっているからです。私にとって書いた小説自体は『素材』のよくなもので、ここから本の形に加工したり、世界観を演出するようなグッズを作ったりすることまで含めてカキモノという遊びで、ないとは思いますが、小説を原作として翻訳やマンガ化なんかがあってもいいと思っています。

翻訳といえば私の本のいくつかはKDP（キンドルダイレクトパブリッシング）をやっている、世界中の人がKindleで買って読むことができるのですが、なぜかドイツで何冊か売れているんですね。もちろん日本語そのままの小説なのですが、おそらく顔を見ることもないだろう人に届いている（かもしれない）というのは面白いです。

カキモノをしていると、見聞き体験する物事に『これはアイデアにならないかな？』と興味深く注目することが増えます。生活はネタの宝庫なんですよ、実は。

見聞き体験する物事の多くがネタになるので、何か面白そうなことがあれば見聞き体験してみたいな、なんて思うようになります。おかげでミュージアムやイベントなどに興味があつて都合がつけばできるだけ出掛けるようになりました。そういう点では適度に都会な福岡市に住んでいてよかつたなあと思います。

さらに、カキモノを通じて同志に出会えました。

同じように小説を書いている人や、好きなものが似ている人。境遇が似ていたり、あるいはまったく違つたりする顔も知らないような人たちと、カキモノや好きなものについて語り合い、思いを深め合うことができています。これはもちろんウェブやSNSのおかげでもあるのですが、友人関係をあまり長く維持できたことのない私にとって、こんなに長く良い関係でいられる相手を、しかも複数人得られているのは、おそらくカキモノをしていなかったら体験できなかったことだと思います。

もちろんカキモノも楽しいことばかりではなく、技術書を読むのはかかったるときもありますし、流行っているならコストをかけて触れてみた作品がつまらないこともあります。本を頒布したり、ましてや宣伝なんて超苦手です。けれどそういう楽しくないことまでひっくるめて、カキモノは楽しいです。

カキモノは——けれど私のすべてではない

カキモノは楽しく、私の生きがいの一つです。けれどそれがすべてではありません。初めて物語を書いたのは二十歳のときでした。現在、私は四十歳で、これからはカキモノを始めてからの人生の方が長くなっていけます。

人生にはいろいろなことがあります。いろいろなことが起こります。私自身、まさか大学を中退するとも思っています。障害者になるとも思っています。巡り合わせでどう転ぶかわからないし、そもそも結婚するとも思っています。巡り合わせでどう転ぶかわからないのが人生なのかな、なんて思うこともあります。

カキモノをしていなかったらどんな人生だったでしょうか。わかりません。カキモノで救われた場面もありましたし、カキモノをしていなければなかったかもしれない嫌なこともありました。人生、なるようにしかありませんが、夢中になれることがあるのは、一つの『救い』になっているかもしれないですね。

おしまい

奥付
カキモノが趣味です！
五〇〇文字小説から二次BLまで

2022. 07. 07

著・発行

氷砂糖

<http://ice03g.parfe.jp/>

印刷・製本

ちよ古っ都製本工房



よろしければ感想アンケートにご協力ください。

匿名、チェック式で感想が送れます。

返礼などはございませんが

著者が元気を出すかもしれません。